

令和8年度第1回近畿圏広域地方計画協議会 及び
社会資本整備重点計画近畿ブロック会議
議事要旨

日 時：令和8年4月22日（水）15:30～16:15

会 場：大手前合同庁舎1階 共用会議室（Web会議併用）

出席者：（会議資料）出席者名簿のとおり

◆議事項目

1. 開会

2. 議事

第1部

（1）関西広域地方計画 計画原案について

（2）スケジュール

（3）質疑応答、意見交換

第2部

（1）近畿ブロックにおける社会資本整備重点計画（原案）について

（2）スケジュール

（3）質疑応答、意見交換

3. 閉会

開会

司会 近畿地方整備局 企画部 事業調整官 南 良和

挨拶・進行 近畿圏広域地方計画協議会長（関西経済連合会長） 松本 正義

挨拶 近畿地方整備局 局長 齋藤 博之

【近畿圏広域地方計画協議会長（関西経済連合会長） 松本 正義】

○本日は大変お忙しい中、近畿圏広域地方計画協議会にご参加いただきありがとうございます。本日は10年ごとに策定される関西広域地方計画の原案について、意見交換をさせていただきたい。2016年から始まった現行計画の計画期間には、コロナ等の課題を乗り越えて、大阪・関西万博の成功、国内外からの観光客の増加などがけん引し、世界における関西のプレゼンスが大いに高まったと信じている。これらを一過性のものとせず、次なる成長につなげていくために、今後10年の具体的な計画を策定していくことが大変重要である。国土政策の観点からは、成長をけん引する都市圏が複数存在する複眼型国土を形成することが必要になった。関西が先頭となるよう取り組んで参りたい。関西が我が国の成長エンジンとして、さらなる発展を遂げていくため、ライフサイエンスをはじめとする成長産業の形成、万博で披露された最先端の技術・サービスの

社会実装に取り組んで地域住民が豊かに暮らすための環境を整えていくことが大変重要である。それを実現するためには、交通ネットワークの整備や災害対応力の強化が不可欠となる。北陸新幹線、リニア中央新幹線の早期整備や関西三空港の最適活用、高速道路ネットワークの充実強化、阪神港の機能強化などに関西が一丸となって取り組んでいく必要がある。

また南海トラフ地震をはじめとする大規模災害においては、自治体の境界を越え、広範囲の物資や人員等の応援・受援が必要となり、関西広域でも災害対応力強化を目指していく必要がある。関西においては、府県を超えた広域自治体として関西広域連合がこのような広域行政の実績を積み上げている。昨年は関経連や関西広域連合等の連名で、関西広域リージョン連携宣言を公表している。全国に先駆けた広域連携の取組をさらに加速させて参りたい。関西広域地方計画についても、このような広域的な視点を踏まえ、実効力のある計画として策定できればと考えているため、皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

また今後の推進に際しては、国からの支援、地元自治体、経済団体の連携協力が不可欠である。関西が新たな発展していく気流に乗せていけるよう、様々な機関、団体の皆様とともに ONE 関西として取り組んでいくことをお願いいたし、挨拶とさせていただきます。

【近畿地方整備局 局長 齋藤 博之】

- 平素より近畿地方における社会インフラ整備の推進に対し、それぞれの立場から支援、協力を賜っていることを、心より御礼を申し上げます。そして、関西広域地方計画協議会及び社会資本整備重点計画近畿ブロック会議の関係機関を代表して、一言ご挨拶申し上げます。近畿地方は、我が国の経済、文化、交流を支える中核的地域である一方、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害の備え、インフラの老朽化、人口減少、少子高齢化、インフラを支える人材の不足、社会のグローバル化、地球温暖化の進行など、取り巻く課題は複雑化・高度化している。今よりもさらに強く元気な関西を目指す道筋が必要だと考えている。それには今回原案をご議論いただく関西広域地方計画、近畿ブロックにおける社会資本整備重点計画が必要である。このうち近畿ブロック社会資本整備重点計画は、関西広域地方計画と調和を図りつつ、事業効果の最大化を意識し限られた財源の中で着実に事業を進めるための計画である。強く元気な関西の実現に向け、皆様の引き続きのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくようお願い申し上げ、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

議事 第1部 (1) 関西広域地方計画 計画原案について

資料説明 近畿地方整備局 副局長 佐藤 忠晴 (資料-4)

近畿地方整備局 建政部 都市調整官 田中 克己 (資料-5)

近畿地方整備局 企画部 広域計画課長 齋藤 哲也 (資料-6)

(2) スケジュール

資料説明 近畿運輸局 交通政策部 計画調整官 黒坂 直樹 (資料-9)

(3) 質疑応答・意見交換

【関西広域連合】

○関西広域連合でも総合計画である広域計画を策定し、令和8年度から5年間の第6期の計画をスタートさせたところである。広域計画と関西広域地方計画は、一部区域は異なるものの、いずれも関西全体の発展を目指すものであり、連携を深めることでより有効なものとなるのではないかと。例えば、いずれの計画でも掲げている関西の将来像、ビジョンと一緒に描くなど、国と地方それぞれの立場からの意見や考えをすり合わせるにより、より良い計画が目指せるのではないかと。今後、次回の計画策定に向け、関西広域連合との関わりを一層深めていただけるようお願い申し上げます。

【事務局】

→指摘の通り、どちらも関西の発展を目指しており連携すべきところも多いと考えているため、今後より一層密に連携をして取り組みたい。

【近畿経済産業局】

○大阪・関西万博を通して、いろいろな最先端技術が評価されたため、これを如何に社会実装していくかが大事。万博レガシーを関西に推進する体制としては、3月末に未来創造会議が立ち上がっている。他方、国では地域未来戦略に基づき、地域の戦略産業クラスター計画の検討がなされ、近畿経済産業局においてもこれを進めている。この両者をしっかりとリンケージしながら、地域の自治体や経済界の皆様と密接に勉強しながら今後も取組を進めていきたいと考えている。

議事 第2部 (1) 近畿ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)について

資料説明 近畿地方整備局 企画部長 野坂 周子 (資料-8)

(2) スケジュール

資料説明 近畿地方整備局 企画部 事業調整官 南 良和 (資料-9)

(3) 質疑応答・意見交換

【関西広域連合】

○次回の計画を作成する際は、水と水源の山、そして森林に関する内容をより強く反映してはどうか。近畿圏内の国土交通省が管理しているダム、農業用ダムも含め、貯水率に

ついて気にしている自治体がある。気候変動の影響により、雨の降り方が酷くなったり、なかなか降らなかったりということもあるが、琵琶湖でも水位や水源の山が荒れていることによる貧栄養化などの課題がある。所管は国土交通省ではないのかもしれないが、社会資本を整理する際に、山、水、治水だけでなく、利水のことなどについてもより強く打ち出しながら、持続可能な関西・近畿の礎を中長期的に確保していく視点を強く打ち出してみてもどうか。

【事務局】

→意見を参考に、次回計画について協議して策定に繋げたいと考えている。

閉会

挨拶 近畿運輸局 局長 服部 真樹

○令和 8 年度第 1 回近畿圏広域地方計画協議会及び社会資本整備重点計画近畿ブロック会議の閉会にあたり、国土交通省を代表して一言ご挨拶申し上げます。本日は皆様、ご多忙の中、当会議にご出席を賜り誠にありがとうございました。本日議題となった関西広域地方計画は概ね 10 年ぶり、近畿ブロック社会資本整備重点計画は 5 年ぶりの策定となる大変重要な計画であるが、両計画とも無事に原案は了承されたものと理解している。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。改めて感謝を申し上げます。両計画は関西の目指す将来像や国民生活及び地域経済を支える重要インフラの整備の方向性を示すとともに、広域連携プロジェクトや重点目標を定めるものである。関係省庁、関係自治体、関西経済界の皆様方には、本日はもとよりここに至るまでの間、何度も意見交換を重ねて、多くの貴重なご意見を頂戴した。厚く御礼を申し上げます。おかげさまで次の時代を見据えた広域的なビジョンとして内容を一層充実させることができたものと承知している。両計画は今後、本省において関係省庁との協議やパブリックコメントなど必要な手続きを経た上で正式決定の運びとなる。計画決定後も引き続き皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上